

折に触れ 四字熟語

NO. 46 〔雲翻雨覆〕 うんぽん うふく

< 意味 > 世の人の態度や人情が、軽薄にめまぐるしく変わるたとえ。世の人情のうつろいやすいたとえ。

< 出典 > 杜甫^{ひんこうこう}「貧交行」(詩)

貧交行

翻手作雲覆手雨 手を^{ひるがへ}翻せば 雲と作り 手を^{くつがへ}覆せば 雨となる
紛紛^{ふんぶん}輕薄何須數 紛紛^{ふんぶん}たる輕薄 何ぞ^{かぞ}數^{もち}ふるを須^{もち}ひん
君不見^{かんぼう}管鮑貧時交 君見^{かんぼう}ずや 管鮑^{ひんじ} 貧時^{まじ}の交はり
此道^こ今人^{こんじん}棄^す如^{ごと}土^{ごと} 此の道 今人 棄てて土の如し

通 釈 : 手のひらを返すように、たちまち形勢が一変するのが、世の習いであり

こうした軽薄きわまるやからが多くて、いちいち問題とするにも足りない

あなたは、ご存知ありませんか、あの^{かんちゅう}管仲と^{ほうしゅくが}鮑叔牙との、貧乏時代の友情の深い交際を
こうしたりっぱな人間の道を、今の世の人は、土くれのように捨て去ってしまっている

語 釈 : 「翻手」手のひらを上に向ける。「覆手」手のひらを下に向ける。手のひらを上下にかえすほどの短い時間で、めまぐるしく変わる軽薄な世情をたどっている。「雲・雨」はたちまちに変わることにとえる。「紛紛」ごたごたと多いさま。「何須數」いちいち数えきれないほど多い。「管鮑」^{かんちゅう}齊の管仲と、^{ほうしゅくが}鮑叔牙のこと。中国の春秋時代の人で、貧乏の時代をとおして、非常に仲がよかったので有名。

一 言 : 雨シリーズその2

雲と雨とが世の人情の移ろいやすさに結びつくんですね。たしかに、突然空に黒い雲が現れたと思ったら激しい雨に降られることがよくあります。そしてすぐにまた、青空が戻ってきます。

参考文献 : 角川書店「中国名詩鑑賞辞典」 三省堂「四字熟語辞典」